

5月

新着図書

星の教室

著者名： 高田 郁
出版社： 角川春樹事務所

明日をあきらめない、人生を手放さない。
主人公の潤間さやかは、中学の卒業証書を受け取っていない。
義務教育さえまともに終えていないという枷が、社会でも家庭内でも、さやかを生き辛くさせていた。しかし、ある日、さやかは夜間中学という存在を知る。それは、戦争や貧しさや病など、さまざまな事情で義務教育を終えられなかった大人たちの集う学校だった。二十歳の春、さやかは河堀夜間中学への入学を果たす。仲間たちに支えられて過ごす日々が、学校や親への不信で雁字搦めだったさやかの心を解きほぐしていく。やがて、さやかには密かに叶えたい、という夢が芽生え始めるのだが……。

そういえば最近

著者名： 寺地 はるな
出版社： U-NEXT

商店街の一角にぽつんとある、元・文学スナック、現・惣菜屋「真実一路」。町内でいま話題をさらっているのは、その店のママ・愛里須とその夫で売れない小説家・治の行方。ある人によれば、円満離婚したらしい。別の人によれば、妻が甲斐性なしの夫に三行半をつきつけた、という。また他の人いわく、夫が恐妻から逃げ出した、と。邪気のない噂が邪気混じりの噂を巻き起こしていく——急な閉店と夫婦の蒸発についての真相とは？

老いはヤケクソ

著者名： 佐藤愛子
出版社： リベラル社

100歳を迎えた佐藤愛子先生のインタビュー、佐藤愛子を彩る家族や相棒たちを語ったエッセイ、過去の受賞作を紹介。老いの日常をヤケクソになって、笑って生きる愛子センセイから元気がもらえる一冊。

月とアマリリス

著者名： 町田 そのこ
出版社： 小学館

北九州市の高蔵山で一部が白骨化した遺体が発見された。地元のタウン誌でライターとして働く飯塚みちるは、元上司で週刊誌編集者の堂本宗次郎の連絡でそのニュースを知る。遺体と一緒に花束らしきものが埋められており、死因は不明だが大きな外傷はなかった。警察は、遺体を埋葬するお金のない者が埋めたのではないかと考えているという。遺体の着衣のポケットの中には、メモが入っていた。部分的に読めるその紙には『ありがとう、ごめんね。みちる』と書かれていた。遺体の背景を追って記事にできないかという宗次郎の依頼を、みちるは断る。みちるには、ある事件の記事を書いたことがきっかけで、週刊誌の記者を辞めた過去があった。自分と同じ「みちる」という名前、中学生のころから憧れ、頑張り続けた記者の仕事。すべてから逃げたままの自分でいいのか。みちるは、この事件を追うことを決めた——。

遊園地ぐるぐるめ

著者名： 青山 美智子・田中 達也
出版社： ポプラ社

田中さんの作品を見て、小説を書きました。——青山美智子
青山さんの小説を読んで、作品を作りました。——田中達也
今まで見たことのない！ 最高に幸せなコラボレーション連作短編小説。青山美智子さん作品の装丁を数多く手掛けている田中達也さんのアート作品。今回は「田中さんの作品を見て青山さんが物語を執筆し、その物語を読んで田中さんがさらにアートを作成する」という、楽しさに満ちた小説です。

天狼

著者名： 今野 敏
出版社： 角川春樹事務所

東京湾臨海署刑事組対課強行犯第一係、通称・安積班のメンバー須田巡査部長が、臨海署管内にあるスナックのマスターから、ミカジメ料を要求されたと相談を受けた。安積と須田は暴力犯係の真島係長に相談し、見回りを強化してもらうことに。一方、管内で立て続けに傷害事件が発生する。湾岸エリアが物騒な空気に包まれる中、交機隊の隊員が、速水小隊長の様子がおかしいと安積に相談にきた。心配に思う安積のもとに、速水が救急搬送されたとの連絡が入って……。次々と起こる傷害事件。その目的は何なのか。市民と、信じる正義を守るため、臨海署のプライドをかけて、安積たちはかつてない戦いに挑んでいく！